

科目名	生活環境学 Clothing Environment	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	生活デザイン学科（2年後期）【開放科目】	科目区分	講義
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>快適で健康的・機能的な「衣環境」のあり方を人体の生理衛生の視点から理解し、健康に適した衣環境／住環境がどのような条件を備えたものであるかを知ることが目的とする。 寒暖への適応性、運動動作への適応性、皮膚の生理・衛生の3つの視点から捉え、各条件に合った素材選択などをできるようにし、衣環境／住環境における健康問題を考えられるようにする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公設試で繊維材料の快適性に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 衣服によって形成される「衣環境」や、住居によって形成される「住環境」は、人間を取り巻く自然、人工、社会、情報といった様々な環境と深く関わり、一番身近な個環境と位置づけられる。人間が生活する時には、人体生理、温熱環境条件、衣服気候、保温効果、室内気候、安全性など、人間を中心とした周囲環境との関係を理解することが重要である。日常生活の様々な場面における、健康で快適な生活環境のあり方を、人間の「第二の皮膚」といわれる衣環境を重点に、人間の側から考える。 【SDGs：3,13】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 衣環境と住環境 ② 衣環境・住環境の快適性 ③ 暑さ寒さの快適性（1）体温とその調節 ④ 暑さ寒さの快適性（2）体内での熱移動 ⑤ 暑さ寒さの快適性（3）自律性体温調節反応 ⑥ 暑さ寒さの快適性（4）熱と水分の移動 ⑦ 衣服圧と快適性（1）人体の形状と運動変形 ⑧ 衣服圧と快適性（2）衣服圧と生理心理反応 ⑨ 衣服圧と快適性（3）衣服圧の生体への影響とメディカルテキスタイル ⑩ 皮膚の衛生と皮膚障害（1）皮膚の構造と生理 ⑪ 皮膚の衛生と皮膚障害（2）皮膚の汚染と衛生 ⑫ 皮膚の衛生と皮膚障害（3）衣服による皮膚障害 ⑬ 肌着の快適性と健康 ⑭ 寝衣と寝具の快適性と健康 ⑮ 履物と靴下の快適性と健康 ⑯ 期末試験（記述式 持ち込み不可） 		
予復習等	<p>【予習】解説予定の内容について、日常生活との関連について確認しておく 【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20％，期末試験80％で、総合判定する		
履修条件	なし		
教科書	『衣環境の科学』／田村照子編著／建帛社		
参考書	『基礎被服衛生学』／田村照子／文化出版局 『衣服と気候』／田村照子／成山堂		